

上位・関連計画の整理とまち並みとにぎわいづくりの特性と課題

〈計画書の第2章、第3章に関わる内容〉

—目次—

1. 上位・関連計画の整理	… 1
2. まち並みとにぎわいづくりの特性と課題	… 10
－（１）地域資源の特性	… 10
－（２）市民主体のまちづくり活動（団体ヒアリング結果）	… 17
－（３）計画体系	… 28

上位・関連計画の整理とまち並みとにぎわいづくりの特性と課題

1. 上位・関連計画の整理

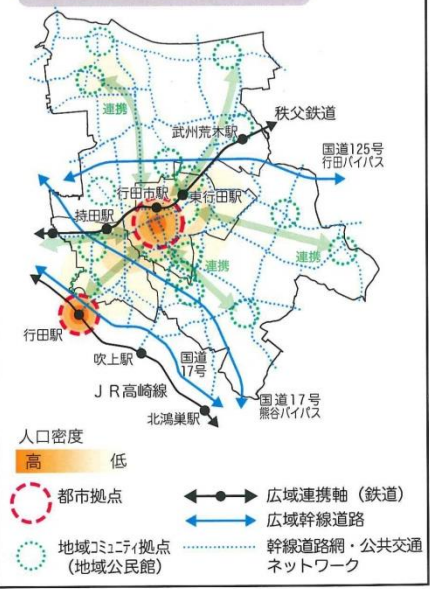
①第5次行田市総合振興計画

名 称	第5次行田市総合振興計画 平成23年3月
将来像	「古代から未来へ 夢をつなぐまち ゑようだ」 埼玉県名発祥の地である本市は、古代から続く悠久の時の流れとともに、豊かな自然と輝かしい歴史、薫り高い文化をはぐくんできた。 こうした先人から受け継いだまちの“財産”に誇りを持ち、守り、継承し、また、市民と行政との創意工夫によるまちづくりを進めることで、未来の市民へと夢をつなぎ、活力と希望に満ちたまちを目指す。
まちづくりの 基本理念	まちづくりの基本理念 「ひとの元気・地域の元気・まちの元気」 【健康】 だれもが健やかに暮らせる元気なまち 【人材育成】 夢をはぐくみともに成長できる学びのまち 【市民協働】 パートナースhipで未来をひらく協働のまち 【支え合い】 地域の力に支えられた安心・安全なまち 【継承と創造】 独自の資源を生かし新しい魅力を創造するまち 【環境との共生】 自然環境と共生した快適でうるおいのあるまち
施策の大綱	①やすらぎ：だれもが健やかで幸せに暮らせるまちづくり【保健・福祉・医療】 政策1 健康に暮らせるまちをつくる 政策2 みんなで支え合うまちをつくる 政策3 高齢者がいきいきと安心して暮らせるまちをつくる 政策4 安心して子育てができるまちをつくる 政策5 障がい者が自立して暮らせるまちをつくる 政策6 いつでも必要な医療が受けられる安心なまちをつくる 政策7 だれもが安心して暮らせるまちをつくる
	②快適：生活基盤が充実した便利で快適なまちづくり【都市基盤】 政策1 魅力あるまち並みをつくる 政策2 道路環境が快適なまちをつくる 政策3 安全で快適に移動できるまちをつくる 政策4 豊かな緑と水辺環境に恵まれたまちをつくる 政策5 安全で安定した水の供給と河川がきれいなまちをつくる 政策6 住環境が整った暮らしやすいまちをつくる
	③うるおい：豊かな自然と共生したうるおいのあるまちづくり【環境】 政策1 資源循環型社会が形成されたまちをつくる 政策2 自然環境とのふれあいに満ちたまちをつくる 政策3 地球環境にやさしいまちをつくる
	④にぎわい：活気と活力に満ちたにぎわいのあるまちづくり【産業・経済・観光】 政策1 地域の魅力にあふれたまちをつくる

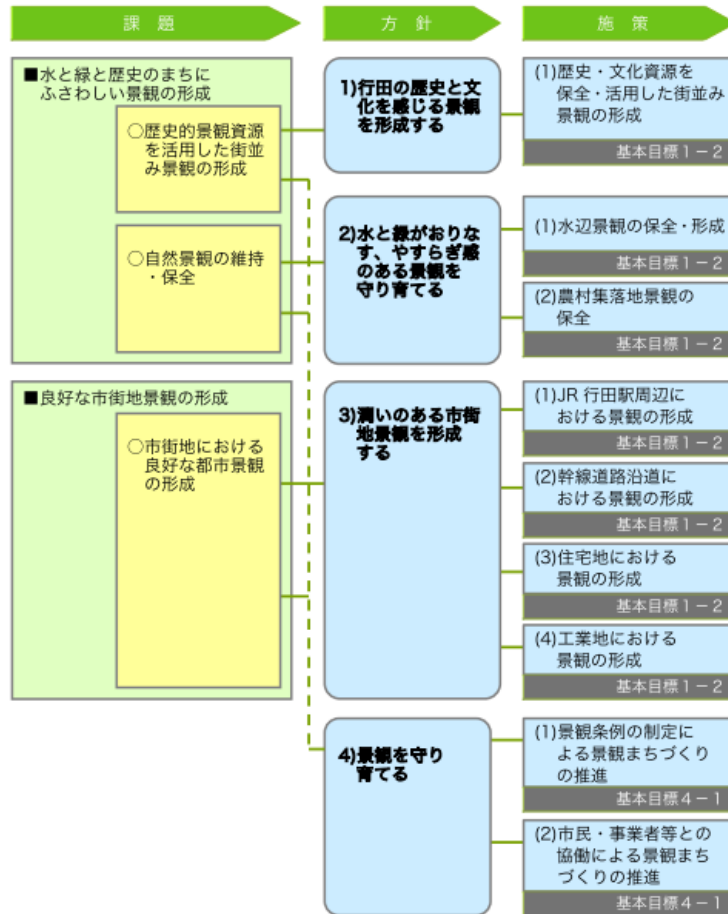
	政策 2 安心・安全な農産物を供給できるまちをつくる 政策 3 商業活動が活発なまちをつくる 政策 4 地域産業が盛んなまちをつくる 政策 5 安心して働けるまちをつくる
	⑤安心・安全：安心と安全に支えられたまちづくり【危機管理】 政策 1 犯罪のない安心なまちをつくる 政策 2 災害に強いまちをつくる 政策 3 交通事故のない安全なまちをつくる 政策 4 消防・救急体制が整った頼れるまちをつくる 政策 5 安心して消費生活が送れるまちをつくる
	⑥はぐくみ：未来をひらく人材と文化をはぐくむまちづくり【教育・文化・芸術】 政策 1 感受性豊かな子どもをはぐくむまちをつくる 政策 2 生きる力のある子どもをはぐくむまちをつくる 政策 3 学びの環境にあふれたまちをつくる 政策 4 スポーツと文化・芸術活動が盛んなまちをつくる 政策 5 歴史と文化を大切にするまちをつくる 政策 6 思いやりのある青少年を育てるまちをつくる 政策 7 知的資源を生かしたまちをつくる
	⑦ふれあい：支え合い、元気に暮らせるふれあいのまちづくり【コミュニティ】 政策 1 市民と行政が協働するまちをつくる 政策 2 コミュニティ活動が活発なまちをつくる 政策 3 一人ひとりの人権が尊重されるまちをつくる 政策 4 男女が互いに支え合い社会参画できるまちをつくる 政策 5 交流活動が盛んなまちをつくる
	⑧信頼：市民に期待される信頼のまちづくり【行財政運営】 政策 1 経営感覚を備えた市役所（行政）をつくる 政策 2 親しみと信頼が持てる市役所（行政）をつくる
まち並みに 関する内容	【快適（都市基盤） 政策 1 魅力あるまち並みをつくる】 ○地域特性を生かしたまちづくり ・美しく、優れた景観は、まち全体のイメージを向上させ、市民のまちへの愛着をはぐくむものです。良好な景観資源の保全や活用に向けて、市民の景観に対する意識の高揚を図っています。 ・市民がいつまでも住み続けたい、住んでみたいと思える生活環境を整備するためには、本市の特色である自然環境や歴史文化を生かした景観形成を、市民や企業、NPO等と協働して推進する必要があります。 施策 2 行田らしい景観の形成 ○活力ある市街地の形成 ・既存の市街地には、神社仏閣や足袋蔵の残るまち並みなど、本市特有の歴史的景観が残されています。市街地の活性化を図るため、これら歴史的景観を生かしながら、市民と協働した取組みをさらに充実することが必要です。 施策 1 既存市街地の充実

	【はぐくみ（教育・文化・芸術） 政策5 歴史と文化を大切にするまちをつくる】 ○文化財・伝統文化の保存と継承 ・本市には、地域に息づくさまざまな伝統文化が残されており、まちに品格と魅力を与えています。 ・さまざまな文化財を良好な状態で後世に伝えていくため、市民と協働で保存活動と調査活動を並行して行い、必要に応じて文化財指定等の保護措置を図る必要があります。 施策1 文化財の保護及び愛護意識の啓発
にぎわいに 関する内容	【にぎわい（産業・経済・観光） 政策1 地域の魅力にあふれたまちをつくる】 ○観光資源の整備・充実 ・近年、観光の目的や旅行の形態などのニーズが変化する中、時間をかけて地域を観て、地域の人と交流してもらう「観光まちづくり」の推進が求められています。 ・本市は、埼玉古墳群や忍城址などの歴史資源や古代蓮などの自然資源、フライやゼリーフライなどの食文化に代表される文化資源など、豊かな観光資源に恵まれています。 ・市内に点在する観光資源の魅力を高めるとともに、これらの資源を有機的に結び付け、観光地としての行田の魅力を確立することが必要です。 施策1 観光資源の発掘と活用 施策2 観光資源のネットワークの確立 ○観光客の誘致 ・関連団体と連携した、安定的な誘客を図る仕掛けづくりが重要となっています。 ・近年の観光客のニーズが、消費型の「観る」観光から、自然や文化志向の体験型の「行動する」観光へと変化しているため、本市の豊かな観光資源を活用した体験型交流を一層推進することが必要です。 施策1 独自の魅力の創出 施策3 関連団体との連携強化 ○観光客の受け入れ体制の整備 ・市内各地の観光スポットにおいてNPOやボランティア等による主体的な交流が行われてきていますが、今後はより多くの市民を巻き込み、まちの魅力を紹介・案内できる人材の育成・確保が重要となっています。 ・観光客の利便性のさらなる向上を図るため、観光サイン・観光マップ等による観光情報の提供や、魅力ある観光ルートの設定等を行うことが必要です。 施策2 観光客の利便性の向上 【快適（都市基盤） 政策1 魅力あるまち並みをつくる】 ○活力ある市街地の形成 ・本市においても市外の郊外型大型店舗への買い物客の集中に加え、既存商店街における後継者不足や経営者の高齢化等が進み、市街地における活力低下が課題となっています。 ・今後は、本市の地域特性を生かしたまちづくりとして、より身近な地域で歩いて暮らせる環境整備やその拠点づくりが重要となっています。 施策1 既存市街地の充実 施策2 地域拠点の創出

②行田市都市計画マスタープラン

名 称	行田市都市計画マスタープラン 平成 25 年 3 月
将来像	「水と緑と歴史がおりなす 笑顔あふれるまち ゑようだ」 笑顔あふれるまちとは、住む人も訪れる人も幸せを感じるまちです。住みよく、暮らしやすいまちで、だれもがいきいきと楽しく暮らしていることが、訪れる人にとって、最大のおもてなし環境です。 古代から現代へ人の営みを綿々とつなぎ、未来をきりひらくまち、これが行田です。現代を生きる私たちは、まちをつくり、育て、発展させ、未来につなげていきます。
都市づくりの 基本方針	環境負荷の少ない集約・連携型の都市づくり 【都市構造のイメージ】 これまでのまちづくり  これからのまちづくり  人口密度 高 低 広域連携軸（鉄道） 広域幹線道路 幹線道路網・公共交通ネットワーク 都市拠点 地域コミュニティ拠点（地域公民館）
都市づくりの 基本目標	1 行田らしさが光るまち（水と緑と歴史の継承） 2 笑顔で暮らす、住みよいまち（暮らしの充実） 3 笑顔あふれ、にぎわいを生むまち（にぎわいの創出） 4 みんなでつくる協働のまち（協働・連携によるまちづくりの推進）
景観に関する 内容	〈景観に関する方針〉 住みたい、訪れたいと思えるまちづくりを進めるためには、地域固有の歴史や文化を映し出す、愛着の感じられる景観が大きな役割を果たします。 このため、豊かな自然を感じさせる風景、活力・にぎわいといった都市的な風景、及び歴史を感じる風景を活かした景観まちづくりを進めます。

■ 景観に関する体系図



方針 1) 行田の歴史と文化を感じる景観を形成する

(1) 歴史・文化資源を保全・活用した街並み景観の形成

■ 忍城址や足袋蔵、神社仏閣などの歴史・文化資源を保全・活用するとともに、それらを結ぶ路地や遊歩道の整備により、歴史を感じる街並み景観の形成に取り組めます。

方針 2) 水と緑がおりなす、やすらぎ感のある景観を守り育てる

(1) 水辺景観の保全・形成

■ 緑と一体となった水辺景観を形成するため、市内を流れる河川・水路等に沿って、周辺環境に配慮した緑道や遊歩道の整備を推進します。

(2) 農村集落地景観の保全

■ 田園風景を保全するため、開発許可制度の適切な運用により、集団的な優良農地の保全に取り組めます。

方針 3) 潤いのある市街地景観を形成する

(1) JR 行田駅周辺における景観の形成

■ 南の玄関口としてふさわしい景観を形成するため、駅周辺の都市基盤整備や緑化に取り組めます。

(2) 幹線道路沿道における景観の形成

■ 幹線道路沿道の良好な景観を形成するため、屋外広告物や建築物等の規模・色彩などの規制や、街路樹の整備による連続性のある景観形成に取り組めます。

(3) 住宅地における景観の形成

■緑豊かでゆとりのある落ち着いた住宅地の景観を形成するため、建築協定や地区計画により、生け垣の設置や敷地内の緑化を促進します。

(4) 工業地における景観の形成

■周辺環境に配慮した景観形成を図るため、敷地内の緑化などを促進します。

方針4) 景観を守り育てる

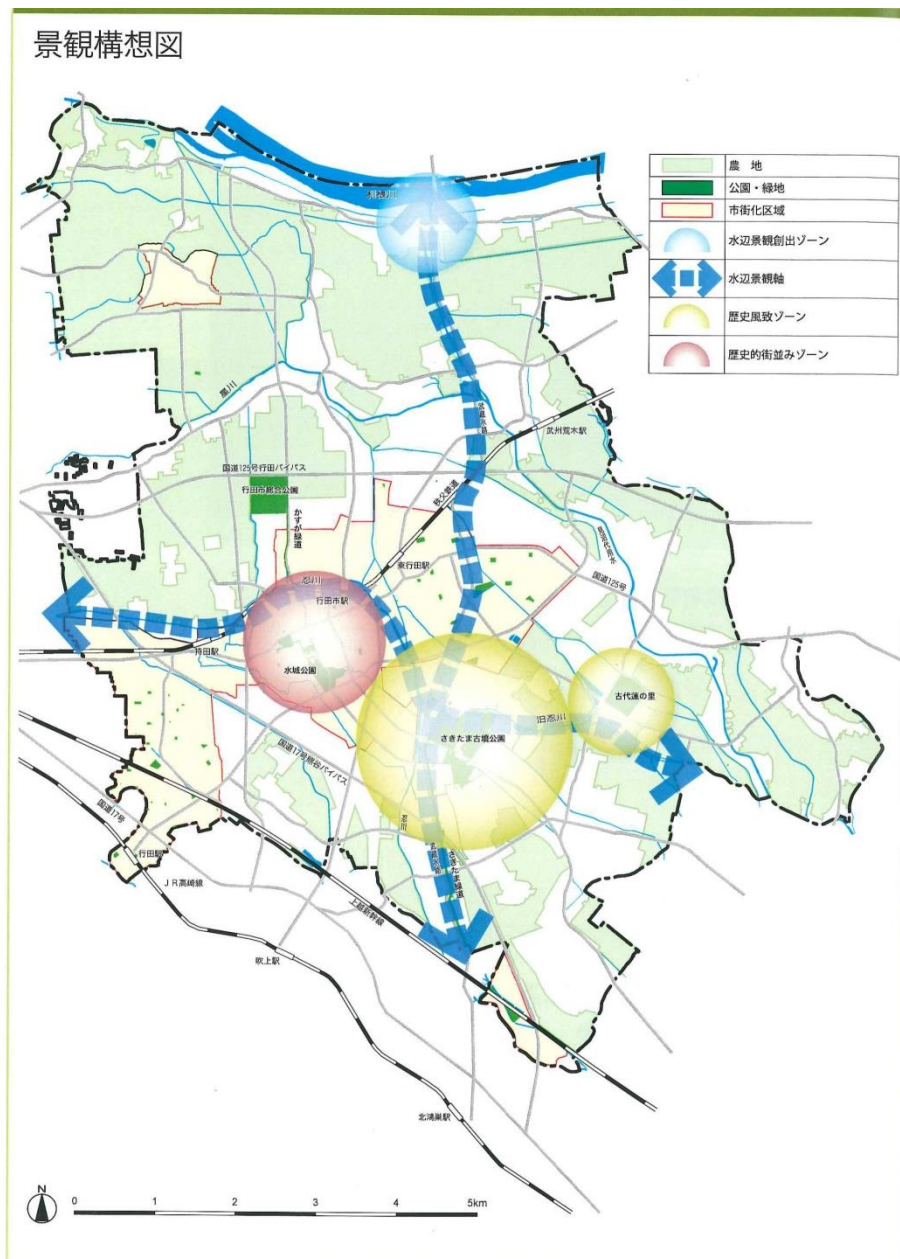
(1) 景観条例の制定による景観まちづくりの推進

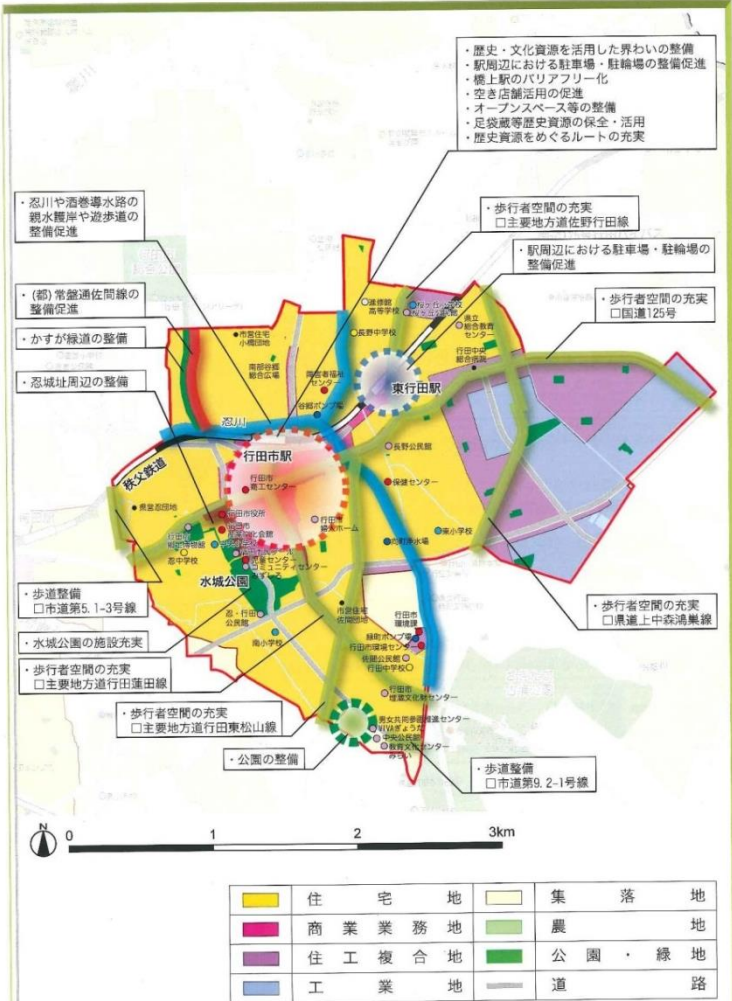
■行田らしい景観の保全と形成を図るため、景観行政の総合的な指針となる景観条例の制定に取り組みます。

(2) 市民・事業者等との協働による景観まちづくりの推進

■景観に関する情報発信により、市民・事業者・行政との協働による景観まちづくりに取り組みます。

〈景観構想図〉

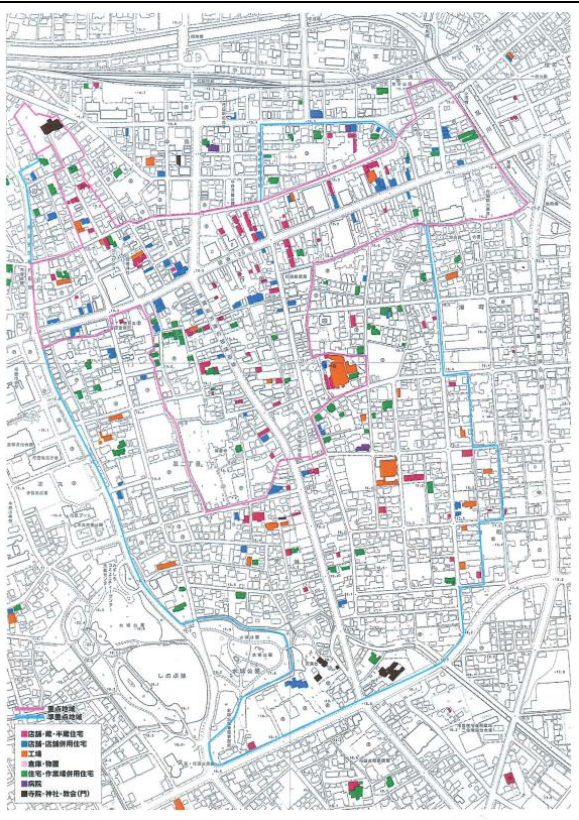


中心部地域の 将来像	「水と緑を身近に感じ、歴史の風格が漂う 歩いて暮らせる便利なまち」
中心部地域の 基本方針	方針１）水と緑と歴史を活かしたまちづくり ① 忍城址と水城公園を核とした拠点の形成 ② 忍川や酒巻導水路などを活用した水辺空間の創出 ③ 歴史資源を保全・活用した街並み景観の形成 ④ 公園・緑地等の整備 方針２）安心して住み続けられる質が高く利便性の高いまちづくり ① 市街地における都市機能の集約 ② 安全で快適に歩ける歩行者空間の形成 ③ 災害に強い市街地の形成 方針３）人が集まり、活気とにぎわいのあるまちづくり ① 多様な居住ニーズに対応した良好な住環境の形成 ② 中心市街地の活性化によるにぎわいの創出 ③ 地域資源をめぐる自転車交通環境の整備
	〈中心部地域構想図〉  ・忍川や酒巻導水路の親水河岸や遊歩道の整備促進 ・(都)常盤湯佐間線の整備促進 ・かすが緑道の整備 ・忍城址周辺の整備 ・歩道整備 □市道第5.1-3号線 ・水城公園の施設充実 ・歩行者空間の充実 □主要地方道行田蓮田線 ・歩行者空間の充実 □主要地方道行田東松山線 ・公園の整備 ・歩道整備 □市道第9.2-1号線 ・歴史・文化資源を活用した界わいの整備 ・駅周辺における駐車場・駐輪場の整備促進 ・農上駅のパリアフリー化 ・空き店舗活用促進 ・オープンスペース等の整備 ・足袋蔵等歴史資源の保全・活用 ・歴史資源をめぐるルートの充実 ・歩行者空間の充実 □主要地方道佐野行田線 ・駅周辺における駐車場・駐輪場の整備促進 ・歩行者空間の充実 □国道125号 ・歩行者空間の充実 □県道上中森鴻巣線 ・住宅地 ・商業業務地 ・住工複合地 ・工業地 ・集落地 ・農地 ・公園・緑地 ・道路

③行田市景観計画

名 称	行田市景観形成基本計画書 平成 11 年 3 月
目標像	「住む人にとっても、訪れる人にとっても やすらぐ都市風景をつくる」 行田らしさは、田園、歴史、街並みなどによって総合的に形成されている。行田らしい住み良さの基調となっているのびやかでやすらぎ感のある風景。便利さや活力、賑わいといった都市的風景。古墳群、忍城、街並み、足袋産業などの誇れる歴史の風景。こうした風景を目標として景観まちづくりを進め、全体として「やすらぐ都市風景」を形成する。
景観形成の3つの視点と過程の視点	1 「場所」の魅力を守り、創り、育てる。 市内に散在する良いモノ、良いコト、良い場所を再発見して、その場所をまちづくりの種と考えて保全・継承し、景観的に育てていく。 ○特徴ある地区を景観形成先導地区にする ○まちかどの魅力を高める ○建物や施設の質を向上させる 2 モノ、コト、場所をつなぐ 歩行ルート、水路（水路軸）、街路樹（街路軸）、サインやイベント等により、景観形成した個々の「場所をつなぐ」。また、古代、近世、近代の歴史がわかるようにして「時をつなぎ」、さらに、市民参加で各種の景観に関わる「人をつなぐ」。このように、まちの中に景観的な脈絡をつくっていく。 ○場所をつなぐ ○時をつなぐ ○人をつなぐ 3 ゾーンの個性をつくる 個々の場所の特徴を守り、創り、育て（第1の視点）、その場所と時と人をつないでいく（第2の視点）ことを計画的に推進していくことにより、地域毎の個性をわかりやすく、身近なものにしていく。 地域を訪れた人が、歩いてみて「ちょっと良いな」と感じ、少し歩いてまた「あそこにも」と似た特徴を感じ取ることによって、地域全体の特徴やまとまりを印象づけることが可能になる。 このような景観まちづくりによって、市内の中心市街地、周辺市街地、農村地域の各ゾーンの良さを守り、創り、育て、各ゾーンのまとまりと個性をつくっていく。 ○中心市街地らしい景観をつくる ○周辺市街地らしい景観をつくる ○農村地域らしい景観をつくる 過程の視点 景観まちづくりとして進める ○支援、啓発、PR を充実させる ○制度、仕組みをつくる ○先導的事業の推進

④行田地域の足袋蔵等の保全・活用のための調査と提案報告書

名 称	行田地域の足袋蔵等の保全・活用のための調査と提案報告書 平成 24 年 3 月	
調査の目的とねらい	「足袋の行田」は現在でも全国的にその名を知らしめるものであり、かつての賑わいがあった行田市へ蘇りを図る目的のための一提案として、「足袋蔵などの歴史遺産を活かした行田らしい町づくり」に資する調査や足袋蔵活用の具体的モデル考察を行うことを目的とする。 更に、事業推進手法などの幅広い観点も検証することで、行田市役所にて適宜見直しが成されている総合振興計画や都市計画マスタープランのなかで、新たな施策として採択され、具体的な事業計画として実施展開されていくことが、この調査のねらいである。	
足袋蔵・地域の近代化遺産の現状	行田の足袋生産量は近年減少傾向にあるが、平成 16 年に、行田商工会議所のバックアップを受けて、NPO 法人行田足袋蔵ネットワークが設立され、足袋蔵などの遊休化した近代化遺産を歴史的な価値を活かしながら再活用しようと活動を始めた。 足袋蔵や近代化遺産を利用した商店の開業やイベントの開催が行われ、足袋蔵再生の機運が盛り上がりつつある。	
保存活用地区の選定	重点地域 行田地内全域、北谷区蓮華寺親交会・北谷区南町自治会・元町自治会・大手町自治会の区域、第一旭会の区域、 準重点地域 第一内行田自治会・二内会・三内自治会・二北谷親交会の区域に蓮華寺境内を含めた区域、天満地内全域、向町地内の西半部、第一旭会のイサミスクール工場の一角を除いた部分・第二旭自治会の区域の西側、宮本地内の南東部、天神社周辺	
足袋蔵を活かしたまちづくりの推進	1 地区住民との合意と運営組織 2 観光産業との連携と PR 手法 3 アクセス環境の整備 4 町並み形成に資する助成金制度創設	

2. まち並みとにぎわいづくりの特性と課題

(1) 地域資源の特性

①歴史・文化的資源の特性

○足袋蔵（※） 行田が足袋産業で発展していたことを物語る、足袋蔵が市の中心部に多数点在している。足袋蔵は、明治、大正、昭和の 3 つの年代にわたり建設され、大きさや意匠、構造、構成材も様々あり、各足袋蔵の個性が現在でも感じられる、行田の歴史・文化的資源の重要な要素である。	 ▲忠次郎蔵
○歴史的建築物 足袋産業に関連する旧商店や国登録有形文化財に指定されている武蔵野銀行店舗など、市の中心部には足袋蔵以外にも行田の歴史が感じられる建築物が現存している。 近年は足袋蔵等の歴史的建築物を活用したまちづくりが重要視されている。	 ▲武蔵野銀行行田支店店舗
○忍城址 映画「のぼうの城」の舞台にもなり、市のランドマークである忍城址は、行田の観光拠点として各地から人を呼び寄せている。 また、市民にとっては市を代表する景観資源としての認識が高くなっている。 市の中心部には、城下町であった当時の町割りや通りの形状が、現在も残っている。	 ▲忍城址
○埼玉古墳群 国の史跡に指定されている 9 つの古墳が集積しており、県名発祥の地としての歴史の長さをうかがい知ることが出来る場所である。 また、一つ一つの古墳は、規模が大きく、平らな田園風景のアクセントとなっている。	 ▲丸墓山古墳

○石田堤 忍城を石田三成らが攻めたときに、水攻めのために忍城の周囲を総延長 28km にわたり築いた堤として、忍城への水攻めが行われた当時の様子をしのばせる、貴重な遺構である。 現在は約 250m の堤が現存しており、忍川に沿ってひっそりと残っている。	 ▲石田堤
○史跡・旧跡 古代より生活の場が築かれ、発展してきた本市では、あらゆる時代の史跡や旧跡が市内全域に点在している。従って、各地域で本市の歴史の長さや人々の営み、文化的な特色をうかがい知ることが出来る。	 ▲埼玉県名発祥之碑
○寺社 城下町として発展した本市では、出城や砦としての役割を担うため、寺が要所に配置されている。また、成田家や阿部家、松平家など大名家に縁のある寺が数多く存在する。 神社は市全域に分布している。	 ▲真観寺仁王門
○祭り・民俗行事 歴史ある「さきたま火祭り」、市の中心部を山車や神輿が練り歩く「行田浮き城まつり」など、一年を通して市内各地で祭りやイベント、民俗行事が行われている。	 ▲行田浮き城まつり



歴史・文化的資源の特性

- 古代から近世までのあらゆる時代の歴史・文化的資源が、市全域に分布している。
- 市内には、埼玉古墳群をはじめとした、古代の様相をうかがい知ることが出来る歴史的資源があり、観光資源としてのにぎわいと地域の自然景観の要素となっている。
- 忍城を中心に、中世の城下町の町割りや寺社などの歴史的資源が中心部の随所に残っており、市を代表する景観資源となっている。
- 秩父鉄道行田市駅周辺には、近世における足袋蔵などの文化的資源が集積しており、行田らしいまち並みを形成する重要な要素となっている。

(※) 足袋蔵：足袋蔵は、蔵造りの倉庫等、蔵造りの店舗・店舗併用住宅・住宅等、その他の製品・原料収蔵専用倉庫等の3つに大別され、本市中心市街地の蔵及び足袋産業関連の近代化遺産を象徴する呼称として用いられている。

②自然資源の特性

○田園 市の全域にわたり、豊かで美しい田園風景が広がっている。夏は一面の緑となり、秋は黄金色に輝く田園の様相から、一年を通して行田の田園風景の移ろいが愉しめる。 広々とした田園からは、周辺の山々の眺望が望め、自然の豊かさを体感できる。	 ▲田園風景
○利根川 坂東太郎の異名をもつ利根川は、水量が豊かで、ゆったりとした流れであることから地域の水辺として親しまれている。サイクリングコースが整備され、水上市場も楽しめる水辺空間となっている。 また、県南部や東京都へ水資源を供給している利根大堰の規模とその姿に圧倒される。	 ▲利根川と利根大堰
○河川・水路 市内を流れる河川や水路は、川沿いを緑道として整備したり、桜並木が連なっていたりと、地域の身近な親水空間が形成されている。 市中心部の史跡、観光資源の多くは忍川やさきたま調節池（旧忍川）のほとりに存在しており、歴史的にも重要な資源である。	 ▲武蔵水路
○古代蓮の里 行田蓮をはじめ、42種類 12万株の花蓮が植栽されており、蓮だけでなく多様な植物と触れ合える場として市内外の人々を惹きつけている。 公園内の展望タワーからは、田んぼアートが見られる。	 ▲蓮と展望タワー
○水城公園 市の中心部に立地し、四季折々の草花が愉しめる自然豊かな公園であり、沼地を巧みに利用した忍城の堀を整備して作られた憩いの場として親しまれている。	 ▲水城公園

○屋敷林

農村集落地の住宅には、防風を目的とした屋敷林があり、行田の古くからの農家や農村の様子がうかがえる。



▲屋敷林

自然資源の特性

- 季節ごとに移ろう田園風景が、市全域に広がり、市の象徴的な自然風景である。
- 高低差のない平らな地形になっており、周辺を連なる山々が望める。
- 市全域に広がる田園風景や周辺の山々は、市内の景観の背景となる重要な要素であり、市の骨格となる景観資源となっている。
- 市全域を巡っている河川や水路は、地域の身近な水辺空間となっている。
- 古代蓮の里や水城公園は、観光のにぎわいの拠点であるとともに、四季折々の変化が愉しめる場となっている。
- 農村集落地の住宅の屋敷林は、防災的な役割とともに、農村集落の特徴的なまち並みを形成する要素となっている。

③生活・産業資源の特性

○住宅地

中心市街地では、古くからの住宅と新たな住宅が混在した住宅地の形成がみられる。

西部地域では区画整理や大規模な宅地開発により、新興住宅地が建ち並んでいる。



▲新興住宅地

○商店

行田市駅周辺の商店街では、空き店舗や空き地が目立っている。

近年、足袋蔵や歴史的建築物を活用した商店が増加している。



▲行田市駅前の通りの空き店舗

○公共施設

広々とした田園に立地する行田市総合公園は、開放的で市民のスポーツや健康増進の場となっており、市街地にまとまった緑と広い池を擁する水城公園では、釣りを楽しむ人で連日賑わっている。

また、古代蓮の里にある展望タワーや、忍城址の郷土博物館などの観光箇所が市全域に点在している。



▲行田市総合公園

○工業団地

長野地区においては、工業団地が集積しており、敷地内の緑化により地域の環境や景観への配慮が感じられる。



▲工業団地

○道路

中心部地域の国道 125 号などの歩道は、歩道や街路樹の整備が行われており、統一感が感じられる通りとなっている。



▲国道 125 号

○鉄道

JR 行田駅及び秩父鉄道持田駅、行田市駅、東行田駅、武州荒木駅の各駅は、市の玄関口として、通勤通学のほか、観光客を迎える場となっており、各駅の周辺は静かで落ち着いた空間が形成されている。



▲JR 行田駅前

生活・産業資源の特性

- 中心市街地では、新旧の住宅が混在する住宅地が形成され、西部地域では、宅地開発による新興住宅地が形成されており、地域のまち並みに合った緑豊かな落ち着いたある住宅地の景観が求められる。
- 市内に分布する公共施設や工業団地などの施設は、地域のまち並み形成に大きく寄与する重要な要素である。
- 主要幹線道路沿道は、街路樹等の緑化による統一的な沿道景観が形成されている一方、沿道施設の広告看板等は景観阻害要因となっている。
- 各鉄道駅は地域の拠点となる要素であり、特に秩父鉄道行田市駅や JR 行田駅は、市の顔としてにぎわいの拠点となる重要な要素である。

（２）市民主体のまちづくり活動（団体ヒアリング結果）

①団体ヒアリングの対象とまとめ

◇ヒアリング対象団体…まちづくり、観光、文化等に関連する市内の団体

分野	番号	団体名	活動概要
まちづくり	1	特定非営利活動法人 ゑようだ足袋蔵ネットワーク	市内に残る足袋蔵を保存・活用し、楽しめるまちづくりの取組みを行っている
	2	特定非営利活動法人 街づくり会社・白壁	住まいやまちづくりに関する活動や、福祉施設への慰問等の活動を通して、地域に関わっている
	3	特定非営利活動法人 忠次郎蔵	国の登録有形文化財である忠次郎蔵の維持と保全を行い、蕎麦を通じて地域住民や来訪者とのコミュニケーションを図り、街を活性化している
	4	行田市商店会連合会	中心市街地の商店街のとりまとめを行い、商店街を中心としたまちづくりを推進している
学術・文化・芸術・スポーツ	5	行田郷土史研究会 2012	郷土史や歴史文化に関わる調査、研究、発表及び情報交換を行い、郷土史や歴史文化を継承している
	6	よろいを着ようボランティア	行田市郷土博物館において、児童用・成人用の鎧（模造）の着用を補助し、市の歴史を来館者に体験してもらう活動をしている
	7	忍の行田の昔ばなし語り部の会	行田市の昔ばなしを掘り起こし、広く市民に継承すると共に、周知活動をしている
	8	Seed（シード）	舞台芸術作品の創作を通じて、地域の人々と交流し、新しい文化の創造を目指している
その他	9	行田観光ボランティア会	来訪者へ市内の観光資源のガイドを行い、市の魅力を伝えている
	10	フライ・ゼリーフライ友の会	市のご当地グルメであるフライとゼリーフライの周知のために、イベント等への出店を行っている

ー特性のまとめー

- ・「ぎょうだ足袋蔵ネットワーク」や「忠次郎蔵」など、行田市駅周辺の歴史的建築物を活用したまちづくり活動が活発に行われている。
- ・「行田郷土史研究会」や「忍の行田の昔ばなし語り部の会」は、研究活動や発表活動を通じて、行田市の歴史や文化を継承している。
- ・「行田観光ボランティア会」による観光案内活動とともに、博物館においては「よろいを着ようボランティア」など、観光客をおもてなす活動が行われている。
- ・「フライ・ゼリーフライ友の会」によるＢ級グルメのイベントや、「忠次郎蔵」によるそば打ち体験教室を通じて、行田市の食をPRしている。

②実施概要

◇団体ヒアリング実施方法：各団体へ主に直接訪問により、団体の概要、活動内容、問題点・課題、今後の活動展開に関して意見交換。

◇団体ヒアリング実施期間：平成 25 年 10 月 1 日（火）、3 日（木）、4 日（金）

1 特定非営利活動法人ぎょうだ足袋蔵ネットワーク

調査実施日時	平成 25 年 10 月 3 日 (木) 14 時～14 時 45 分	ヒアリング場所	クチキ建築設計事務所
1. 活動の参加人数	40 人 (会員)		
2. 活動内容	1) 足袋蔵を活用したまちづくり活動の実施。(忠次郎蔵、牧禎舎、足袋とくらしのミュージアム等の運営) 2) 足袋蔵等を利用したイベントの実施。		
3. 活動場所	蔵が集積する中心市街地		
4. 活動日時	1) 忠次郎蔵、牧禎舎等の足袋蔵ネットワークに関連する組織の定例会は、月に一度開催。 2) 足袋とくらしのミュージアム開館日時：土・日 10 時～15 時。		
5. 現在取り組んでいる景観まちづくり等をテーマとした活動、今後取り組もうとしている活動内容	1) 足袋蔵を活用し、店舗やミュージアム、体験施設として利用している。 2) ふるさとづくり事業を利用した、活動を展開している。		
6. 現在の取組みに対する問題点、課題	1) NPO 団体だけでは活動の幅に限界がある。 2) 協力関係が築けない一部の団体や市民の理解が得られていない。		
7. 現在取り組んでいる内容や今後の活動で、行政と連携して取り組めること	1) 今後はふるさとづくり事業を利用し、活動に取り組んでいきたい。 2) NPO だけでは活動の幅に限界があるため、行政と一緒に活動を広げていきたい。 3) まちなかの観光場所へのサイン計画や回遊性ルートの形成を行う。		
8. その他	1) 近代化遺産を活用し、行田のまちが良くなればという思いで設立した。観光目的で活動をしている訳ではなく、まちの文化を再認識してもらうためのまちづくりを行っている。 2) イベントを開催する際には、行田の景観にはそぐわないためのぼりは立てず、勧誘とかもせず、街中を着物を来た人が歩いたりしている姿をみて、つられてイベントに足を運ぶような自然な来訪の流れをつくっていききたい。 3) 足袋とくらしのミュージアムには、年間 1,000 人程度が来訪し、来訪者の多くは県内に居住し、その内 75%は関東圏に居住している。 来訪者は足袋を目的に来るため、忍城等へ足を運ぶ人は意外と少ない。 4) 蔵の改修から、蔵の所有者とのつながりが生まれ、現在の様々な活動へとつながっていった。 活動当初は、蔵の所有者を対象にした説明会)を開催した所、10軒程度の参加があった。蔵の所有者の方々は蔵を活用できると思っていなかったようで、ただの倉庫という認識程度であった。		

2 特定非営利活動法人 街づくり会社・白壁

調査実施日時	平成 25 年 10 月 1 日 (火) 14 時～14 時 45 分	ヒアリング場所	行田市産業文化会館
1. 活動の参加人数	－		
2. 活動内容	福祉施設へ慰問し、イベントの実施。		
3. 活動場所	行田市内		
4. 活動日時	不定期		
5. 現在取り組んでいる景観まちづくり等をテーマとした活動、今後取り組もうとしている活動内容	かつて、新町通りの空き店舗をものつくり大学の学生に貸し、にぎわいづくりのための事業に取り組んでもらおうとしたが、補助金の申請がおりず、計画を断念することとなった。今後は、若い人たちを取り込んだ取組みを行っていくべきである。		
6. 現在の取組みに対する問題点、課題	団体が主体となってイベント等を開催していけると良い。		
7. 現在取り組んでいる内容や今後の活動で、行政と連携して取り組めること	1) 忍城と市役所との間の整備を行う必要がある。 2) 空き店舗・空き家の活用。 3) 計画づくりへの参加。		
8. その他	1) 行田のために活動していきたいという思いから、行田に縁のある者で NPO 団体を設立した。 2) 行田市駅とのつながり、忍川とのつながりの 2 つのつながりを意識し、中心市街地の軸を形成すれば事により、変化が生まれる。そこから足袋蔵などの活用を行い、面的なにぎわいの形成を図っていったらどうか。 3) 新町通りはアーケードを撤去し建物のファサードを見せた方が良いと考えている。		

3 特定非営利活動法人 忠次郎蔵

調査実施日時	平成 25 年 10 月 1 日(火) 15 時 15 分～16 時	ヒアリング場所	忠次郎蔵
1. 活動の参加人数	200～人 (そば打ち教室の卒業生)		
2. 活動内容	1) 足袋蔵を活用し、そば屋を経営。 2) そば打ち教室の開催 (毎回 15 人程度の参加。) そばを打つことを通じて地域住民やお客とのコミュニケーションを図り、街を活性化する。 3) 5 月の蔵めぐり、11 月の祭などイベントへの参加、また、老人ホームや障害者施設 (長野県) へ慰問し、イベントを実施。		
3. 活動場所	忠次郎蔵		
4. 活動日時	1) そば屋：毎日 (月曜定休) 2) そば教室：第 2 日曜日は自由にそばを打てる日 第 3 日曜日はそば教室開催。		
5. 現在取り組んでいる景観まちづくり等をテーマとした活動、今後取り組もうとしている活動内容	1) 足袋蔵を活用し、店舗として利用している。 2) 蔵を活用した店舗でのそば打ち教室の開催。		
6. 現在の取組みに対する問題点、課題	1) 場所がわかりにくく、観光資源までのサインの整備が図られていないことから、お客さんが迷うことが多い。 2) 忍城と忠次郎蔵に来て終わってしまうため、観光ルートやサイン、看板の整備を行っていくべきである。前面道路の舗装の色を国道 125 号までつなげるなど、人の流れを誘導するようなことを行ってほしい。		
7. 現在取り組んでいる内容や今後の活動で、行政と連携して取り組めること	1) 店内に置いている案内図やパンフレットを持っていく方が多いため、案内図やパンフレットが来訪者への重要な情報発信のツールであると言える。従って、案内図やパンフレットの在庫を常に途切れないようにしていただきたい。 2) イベントへの参加をすること。		
8. その他	1) 案内図やパンフレットの市の在庫がないことが多いため、そのつど増刷していただきたい。 2) まちづくりを行うのであれば、継続的に行っていくべきである。 3) 会員の方はそば粉代が安くなるなどの特典がある。 4) 蓮華寺通りの舗装が整備されたことに関して、来客者から好評である。 5) 足袋蔵ネットワーク以外の団体や近隣とのつながりが少ない。		

4 行田市商店会連合会

調査実施日時	平成 25 年 10 月 1 日 (火) 11 時～12 時	ヒアリング場所	代表店舗
1. 活動の参加人数	加盟店 300 軒		
2. 活動内容	1) 中心市街地の計画の策定。(平成 3 年～) 2) アーケードの撤去や歩道整備などの商店街の活性化に資する取り組みを実施。 〈歩道整備〉 商工センター前の通りを 1 億円かけて、御影石歩道に改修した。 3) 現在、特に活動している事業はない。		
3. 活動場所	中心市街地、商店街		
4. 活動日時	不定期		
5. 現在取り組んでいる景観まちづくり等をテーマとした活動、今後取り組もうとしている活動内容	1) CI、ソフト事業、サイン計画を今まで取り組んできた。 2) 商店街全体が疲弊しているため、何も行っていない。会員数は 34 軒 (20 年前) から 26 軒 (現在) に減少した。		
6. 現在の取組みに対する問題点、課題	1) 官民協働の関係の構築を図っていききたい。 2) かつて、他団体と連携した経験はあるが、目的が異なり、参加人数の規模も異なるため、連携は難しいものと考えている。 3) 加盟店とは有機的な関係を築いていききたい。		
7. 現在取り組んでいる内容や今後の活動で、行政と連携して取り組めること	1) 忍城へとつながる市役所横の小道に、物産館などを設けてにぎわいの創出を図っていききたい。 2) 商店街のにぎわいつくりなどにつながる整備を進める。		
8. その他	1) 青年部会はなく、主体的に活動できる人数は 5～6 人である。 2) 空き店舗に新しい人は、あまり入らず、既存店の代替わりはほとんどされていない状況である。 3) 行田市商店会連合会と新規出店希望者とは意識や方向性の違いがある。		

5 行田郷土史研究会 2012

調査実施日時	平成 25 年 10 月 1 日 (火) 10 時～10 時 45 分	ヒアリング場所	代表自宅
1. 活動の参加人数	8 人		
2. 活動内容	1) 史料調査及び研究の実施。 2) 歴史探訪の実施。 3) 講演及び展示会の開催。 4) ホームページに調査・研究成果の発表。		
3. 活動場所	市内、公民館、研究室、行田郷土博物館		
4. 活動日時	1) 定例：毎月第 3 木曜日 13 時 30 分～17 時 2) 随時：調査、探訪他		
5. 現在取り組んでいる 景観まちづくり等 をテーマとした活動、 今後取り組もうとし ている活動内容	1) 森尾津一著「郷土忍の歴史」の現代語訳を行う。 行田史譚や行田市史などの原本になっているこの本を現代によみがえらせて、著者の想い、歴史の認識を高め、誰でも読める様にしたい。 2) 自治会の管理下の荒廃している神社を、昔の鎮守の森へ復活して地区の活性化、コミュニケーションの場所の一つとして活用する。 3) 歴史・文化・本に関連する国内の他都市町と交流会を展開し、行田市内でも研究会を持ち回りで実施する。 4) 郷土を知り交流を深めるため、古老から昔の行田を聞く場を設ける。		
6. 現在の取組みに対 する問題点、課題	1) いかにして歴史好きな人を動員し、メンバーの増員を図るか。 2) 市内に居住している歴史や社会などの先生方に活動に参画していただきたい。 3) 歴史・文化を知る、見るだけで終わるのではなく、継続性のある活動を主体的にやるにはどのような取組みが必要か。 4) 市に多数ある歴史・文化的な観光・学習・体験資源をどう産業に還元していくか。		
7. 現在取り組んでいる 内容や今後の活動で、 行政と連携して取り 組めること	1) 市内で活動している各団体が年に 2～3 回、情報供する場を設け、それぞれの立場で情報交換や協力展開をしたらどうか。このような場を行政が中心となり、ネットワークを作っていく必要がある。 2) 出前講座を頼まれたからやるのではなく、積極的にテーマや時代性、流行を考え設定して、市の各部署の発表会を市民一般に発表したらどうか。(職員の活性化と成長につながる) 3) 長期的、継続的な取組みを行っていくべきである。歴史を活性化の手段として活かしていくべきである。		
8. その他	子どもを巻き込んだ活動はしておらず、定年後の大人が中心となって活動している。		

6 よろいを着ようボランティア

調査実施日時	平成 25 年 10 月 4 日(金) 15 時～15 時 45 分	ヒアリング場所	行田市産業文化会館
1. 活動の参加人数	13 人 (実際に活動している人は 5～6 人)		
2. 活動内容	入館者の着付け希望者に鎧を着付けることを補助。		
3. 活動場所	行田市郷土博物館		
4. 活動日時	春(本年 4/21、4/28、4/29、5/3、5/4、5/5、5/6、5/19、5/26)、 秋(本年 10/6、10/13、10/14、10/20、10/27、11/3、11/4、11/10、 11/17、11/23、11/24) の 13 時～16 時。		
5. 現在取り組んでいる 景観まちづくり等 をテーマとした活動、 今後取り組もうとし ている活動内容	1) 博物館に来訪した方へ、無料で鎧の着付けを行っている。 2) 市の職員のおもてなしの心をしっかりと会得し、自然に市民への 対応出来る様、研修すべきである。		
6. 現在の取組みに対 する問題点、課題	1) 会員人数を増やしていきたい。 2) 観光に関しての情報が入ってこない。		
7. 現在取り組んでいる 内容や今後の活動で、 行政と連携して取り 組めること	今まで話し合いの場が設けられてこなかったため、話し合う機会を設 ける必要がある。		
8. その他	1)「観光資源を使って行田のまちを元気に」というコンセプトのもと、 設立した。 2) 蔵めぐりコースをつくり、買い物も楽しめるようににぎわいと回 遊性の形成を図るべきである。		

7 忍の行田の昔ばなし語り部の会

調査実施日時	平成 25 年 10 月 4 日(金) 11 時～11 時 45 分	ヒアリング場所	代表自宅
1. 活動の参加人数	100 人（会員）		
2. 活動内容	1) 行田の伝説や史話を掘り起し、発信する。 2) 史話等の語り部の育成。（卒業した語り部は“たくみ”となって、史話等を教えることが可能となる。） 3) イベントなどへの参加。		
3. 活動場所	市内		
4. 活動日時	1) 養成講座：毎月第 2 火曜日 2) 行事：不定期		
5. 現在取り組んでいる景観まちづくり等をテーマとした活動、今後取り組もうとしている活動内容	1) 語り部の育成・継承。語り部養成講座の運営。 2) 観光協会との協働により、市内の史跡に QR コードを付け、来訪者が携帯電話などを利用し、歴史や史話などの情報が得られるようにする。		
6. 現在の取組みに対する問題点、課題	—		
7. 現在取り組んでいる内容や今後の活動で、行政と連携して取り組めること	歴史遺産が失われていく中で、残したいと思う建物を行政がどの程度支援できるのか。今後は、事前に貴重建造物を調査すると共に、保存方法の検討や修景にも市民と協力して推進してもらいたい。		
8. その他	1) 民話は一話 10 分程度。様々な時代の歴史について研究を行っている。 2) 回遊性、ストーリー性のある武蔵水路の整備や資源をつなぎ、秩父鉄道を中心とした観光ルートの構築を行う必要がある。また、城下町としての景観整備も必要である。 3) 他団体や観光ボランティアと連携していきたい。		

8 Seed

調査実施日時	平成 25 年 10 月 1 日 (火) 13 時～13 時 45 分	ヒアリング場所	代表自宅
1. 活動の参加人数	10 人 (会員)		
2. 活動内容	芸術や演劇のワークショップなどを通じて、地域の人々と交流。なお、ワークショップの情報発信は SNS、ブログ、ちらし（近隣の高校の演劇部への配布）を利用。		
3. 活動場所	埼玉近代美術館など		
4. 活動日時	1 回/月		
5. 現在取り組んでいる景観まちづくり等をテーマとした活動、今後取り組もうとしている活動内容	行田でなにか芸術を行っていきたいと考えており、今後は、芸術作家と地元の媒体になりたい。また、地域の若者を巻き込んで所沢のビエンナーレ、群馬のビエンナーレのように、行田のまちなかで芸術的なイベントを開催したい。		
6. 現在の取組みに対する問題点、課題	商店会に空き店舗の利用のお願いをしているが、了承が得られない状況である。利益に結びつかないと成果として捉えてくれないため、若い人は入りにくい状況となっている。		
7. 現在取り組んでいる内容や今後の活動で、行政と連携して取り組めること	1) 滞留できるルートの整備を行い、休憩所を設けるべきである。 2) WS やイベントのちらしを自治会に貼り、市の広報に掲載したい。 3) 行田で芸術のイベントを開催する。		
8. その他	1) 今後もワークショップを行う予定である。 2) 休憩場所や滞留スペースを整備し、地元商店が残るまち歩きルートを形成していくべきである。		

9 行田観光ボランティア会

調査実施日時	平成 25 年 10 月 4 日(金) 10 時～10 時 45 分	ヒアリング場所	行田ロータリークラブ 事務所
1. 活動の参加人数	29 人 (2/3 のメンバーが活動している。20 代～80 代)		
2. 活動内容	1) 観光客に対しての観光ガイドの実施。(観光依頼があった際に派遣し、事前にルートを示し、利用者の承諾を得る。) 2) 定例会(月 1 回)、総会(年 1 回)の実施。 3) 古代蓮の里ガイドの実施。(6 月下旬～8 月上旬) 4) 他市の観光ボランティア団体との交流を実施。 5) 研修会(月 1 回)の実施。		
3. 活動場所	1) 忍城址、郷土博物館 2) 足袋蔵めぐり、社寺めぐり、水城公園 3) さきたま古墳公園、さきたま史跡の博物館 4) 古代蓮の里		
4. 活動日時	1) 9 時～16 時		
5. 現在取り組んでいる景観まちづくり等をテーマとした活動、今後取り組もうとしている活動内容	1) 観光客からの要望に基づいて、歴史遺産や観光拠点の案内をしており、コースは事前に観光客との打ち合わせにより決めている。 2) 観光案内所等での観光ボランティアの常駐を考えている。		
6. 現在の取組みに対する問題点、課題	「のぼうの城」の公開以来、観光依頼が例年の 3 倍になっており、会員の配置に苦慮している。また、員全体のレベルアップも十分に出来ていない点や会員の増員が難しい。今後は、会員が集まれる施設があれば、観光客に対する「おもてなし」を随時展開することが出来ると考えている。		
7. 現在取り組んでいる内容や今後の活動で、行政と連携して取り組めること	歴史遺産が失われていく中で、残したいと思う建物を行政がどの程度支援できるのか。今後は、事前に貴重建造物を調査すると共に、保存方法の検討や修景にも市民と協力して推進してほしい。		
8. その他	1) 要望に応じて市全域がガイドの対象となっているが、忍城、さきたま古墳、足袋蔵のガイドを希望する方が大半である。 2) 職人の方々や他団体との連携が図られているため、足袋蔵等は所有者にお願いし、開けてもらうことも可能である。 3) 来訪者の多くは、インターネットから情報を得て来る。 4) 本団体に加入後、歴史やまち並み等の勉強を行う。 5) 行田市駅から忍城までの道を回遊できるよう整備を進めてほしい。 6) ベンチの設置や秩父鉄道を待っている時間もあきない空間にする工夫を行うなど、行田市駅周辺の整備を進めるべきである。 7) 新町通りのアーケードを撤去し、建物のファサードを見せる。 8) 駐車場を整備し、レンタサイクルを置き、市内や観光場所をまわるようにすべきである。		

１０ フライ・ゼリーフライ友の会

調査実施日時	平成 25 年 10 月 4 日(金) 14 時～14 時 45 分	ヒアリング場所	代表店舗
１．活動の参加人数	10 人 （約 20 店が加盟）		
２．活動内容	1) 市内の様々なイベントに参加し、フライ、ゼリーフライの販売を行う。 2) 近隣の自治体からの要請により各地でフライ、ゼリーフライの販売や宣伝を行う。 3) 各地の B 級グルメ大会などの参加。		
３．活動場所	忍城、さきたま古墳、古代蓮の里、水城公園、市民プール脇芝生広場		
４．活動日時	イベント参加：市内 10 回/年、市外 20 回/年		
５．現在取り組んでいる景観まちづくり等をテーマとした活動、今後取り組もうとしている活動内容	1) イベントへ積極的に参加する。 2) フライ、ゼリーフライの認知してもらうため、全国のイベントへ出店する。 3) フライ、ゼリーフライを通して、本市の認知度を高める。 4) 市内の中学校での体験授業の実施する。		
６．現在の取組みに対する問題点、課題	1) フライ、ゼリーフライは単価が安く、経営を続けていく事が難しいことや出店者が高齢のため、今後扱う商店が減少していくのではないかと。 2) 忍城址等の公園に火気が使用できるようになると、出店がしやすくなる。		
７．現在取り組んでいる内容や今後の活動で、行政と連携して取り組めること	行田市主催の第 2 回行田夢まつり、11 月 23 日は古代蓮の里において第 2 回行田ゼリーフライ総選挙及びゼリーフライ大食い選手権などを企画している。行田を訪れる観光客に PR、又、夢まつりを盛り上げていければと思う。		
８．その他	1) イベントの主催団体からの依頼があり出店を行う。 2) B-1 グランプリの開催以降、フライ、ゼリーフライ店が増加している。 3) 滞留できる場所、トイレ、休憩所の整備を行ってほしい。 4) 商工センターでゼリーフライ等を食べられる場やつくれる場を設けると良いと思う。		

（３）計画体系

上位・関連計画の整理

第５次行田市総合振興計画

- ・地域特性を生かした行田らしい景観の形成のために、歴史・文化的資源の活用を図る。
- ・回遊性を高め、にぎわいと魅力のある市街地の整備、地域拠点の創出を図る。

都市計画マスタープラン

- ・豊かな地域資源を活用した交流人口の増加などにより、にぎわいと活気あふれるまちづくりに努める。
- ・各地域の特性に応じた景観の保全・形成を進め、愛着の感じられる景観をつくる。

景観計画

- ・地域資源を保全・継承・活用し、サインや街路樹等をつなぎ、景観的な流れ・軸を形成する事で、地域特性の醸成を図る。

行田地域の足袋蔵等の保全・活用のための調査と提案報告書

- ・日本一の足袋のまちを物語る資源である足袋蔵や歴史的な建物は、市の中心部に集積しており、近年いくつか活用が図られている。
- ・市民意識調査より、自然や伝統・歴史が地域のアイデンティティとなっている。
- ・秩父鉄道行田市駅周辺の歴史的建築物が集積するエリアは、近代化遺産の密度が高いため保存・活用重点地域に選定する。

まち並みとにぎわいづくりの特性と課題

【特性】

- ・市の中心部は歴史・文化的資源といった資源が集積しており、周辺には、埼玉古墳群や古代蓮の里などの自然・文化資源が点在している。
- ・利根川や田園風景といった自然資源が市の骨格となっている。

（１）地域資源の活用に関する課題

- 市内に点在する自然資源、歴史・文化資源の活用と連携が求められる。
- 埼玉古墳群や古代蓮の里、石田堤などの歴史的な景観資源のつながりをつくる必要がある。
- 市街地に点在する歴史・文化資源の活用と連携が求められる。
- 水と緑の自然景観と調和した市街地景観を形成する。

（２）まち並みづくりに関する課題

- 市街地に点在する歴史・文化資源と周辺の住宅地と一体となったまち並み形成が求められる。
- 市の骨格となる、利根川や田園、屋敷林による農村景観の継承をしていく必要がある。
- 既存の周辺環境と調和した良好な住宅地形成に向けた取組みが求められる。

（３）にぎわいづくりに関する課題

- 空き家や空地の存在により、中心市街地としてのにぎわいに欠けていることから、市の商業・観光の拠点としてのにぎわいの創出が必要である。
- 中心市街地の資源をつなぎ、回遊性のあるまちづくりとにぎわい創出に向けた空間の整備が求められる。
- 古代蓮の里や水城公園などの自然資源同士のつながりがいないため、河川や緑などの自然環境を骨格とした景観づくりに取り組む必要がある。
- 市の玄関口として、駅及びその周辺のにぎわいの創出に取り組む必要がある。

まち並みとにぎわいづくりの方針

水と緑 歴史と文化 自然と生活 がつながるまち並みづくり にぎわいづくり

- ・地域の特性や資源を活かした景観の保全・継承・活用を、市民、事業者、行政が協働で取組み、行田らしいまち並みづくりとにぎわいづくりを目指す。

◆行田らしさを活かしたまちづくりの方針

- （１）行田らしいまち並みづくりの方針
- （２）行田らしいにぎわいづくりの方針

◆地域資源を核としたまちづくりの方針

- （１）秩父鉄道行田市駅周辺を核としたまちづくり方針
方針：歴史・文化とにぎわい溢れるまち並みづくり
- （２）忍城址や水城公園などを核としたまちづくり方針
方針：水と緑の歴史が織りなすにぎわいづくり
- （３）JR 行田駅周辺を核としたまちづくりの方針
方針：利便性を活かした交流と定住によるにぎわいづくり
- （４）埼玉古墳群や古代蓮の里などを核としたまちづくり方針
方針：古代からの歴史と自然を活かしたにぎわいづくり
- （５）利根川や田園などを核としたまちづくり方針
方針：利根川や田園風景の自然豊かなまち並みづくり

◆地域資源のつながりに関する方針

- （１）地域資源の連携方針
- （２）まちづくり活動の連携方針

モデル地区の方針

モデル地区の
具体施策

事業推進に向けた
プログラム

事業の進行管理と推進体制

市民アンケート調査

※実施中にアンケート調査を地域別に集計・分析し、課題と方針に反映

団体ヒアリング及びワークショップ